学校通信

令和８年１０月３１日
東京都立葛飾盲学校長
竹内　大吾
（ 第８号 ）

「学習発表会の御参観ありがとうございました」

校長　竹内　大吾

本日 10 月 31 日（土）の学習発表会では、沢山の保護者の皆様にお越しいただきありがとうございました。日々の練習の成果を発揮するお子様の成長した姿や様々な展示作品を御覧いただけたかと思います。

幼児・児童・生徒にとっては、本校のステージに上がることは、自身の卒業式を除けば、学習発表会の時に限られる特別な機会になります。

さて、大勢の人に注目される特別な機会のことを表すのに、「晴れ舞台」という言葉があります。この「晴れ舞台」の「晴れ」とは、日本古来の「ハレとケ」という考え方に由来しています。ハレ（晴れ）は、祭りや祝い事などの特別な日や非日常のこと、ケ（褻）は、普段の生活や日常のことになります。

今日の学習発表会でのステージ上の活躍、そして大勢からの拍手や喝采を浴びる姿は、まさに子供たちにとっては「晴れ舞台」でした。しかし、晴れ舞台を輝かせるのは、今日一日の出来栄えだけではありません。そこに至るまでの、毎日の練習や努力、友達と力を合わせてきた時間、ケの日の積み重ねにあります。

頑張って長いセリフを覚えること、ダンスが上手にできること、自分の出番の時に自信をもって表現できること、子供によっては、緊張しながらもステージへの一歩を踏み出せることなど、これまでの練習の成果を発揮し、今日の一つの舞台を創り上げた子供たち一人一人の振る舞いが成長の証であり、かけがえのない価値があります。

そして、ステージを降りて、いつもの教室に戻ったとき、子供たちの心には、学習発表会の練習に取り組む以前にはなかった何かが残っているはずです。それは、自信であったり、友達との連帯感であったり、あるいは、次の挑戦へと向かうエネルギーかもしれません。ケの日(日常)の努力がハレの日(特別な日)を輝かせるのと同じように、ハレの日のすばらしい経験もまた、ケの日の生活に活きてくるのだと思います。

今日の学習発表会のステージの幕はおりましたが、この経験が、子供たちの明日からの人生の新たな一幕へとつながっていくことを願っています。

「中学部３年生修学旅行」

１０月８日から１泊２日で、河口湖方面へ修学旅行に行ってきました。

修学旅行では、ふじさんミュージアムを見学したり、山梨県の郷土料理であるほうとう作りを体験したりしました。普段の学校生活ではなかなか味わうことのできないさまざまな体験を通して、新しいことを知る喜びや、実際に体験する楽しさを感じている様子が見られました。特にほうとう作りでは、自分たちの手で作る楽しさを味わいながら、友達と一緒に活動する貴重な時間となりました。

たくさんの笑顔と貴重な経験にあふれ、生徒たちにとって心に残る、思い出いっぱいの２日間となりました。

（文責　中学部 尾﨑）